

観光振興対策・地域公共交通対策等

特別委員長報告

観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会における、これまでの調査並びに審査の経過についてご報告申し上げます。

委員会設置以来、観光力の向上及び地域公共交通対策等に関することについて、県内の実情を含め、各般にわたり調査並びに審査を行ってまいりました。

まず、初度委員会においては、令和5年度主要施策の概要について詳細な説明を受けるとともに、道の駅「クロスウェイなかまち」の観光機能や天平たなばた祭りについての質疑が行われ、道の駅「クロスウェイなかまち」については、南和地域のPRや芝生エリアにおけるソフト事業への取組も検討されたいとの要望がありました。

次に、県内調査として、コロナ禍で人気となったグランピング施設において、宿泊客誘客の取組について、また、過疎地域において、交通手段を確保するため、住民が主体となって運行するコミュニティバスについて、調査を行ったところであります。

次に、九月定例会においては、奈良県外国人観光客交流館や奈良まほろば館、朱雀門ひろばといった観光施設の活用や道の駅における観光戦略などについて質疑が行われました。また、観光施設において民間活力の導入について検討されたい、道の駅については、観光の目的地として点で

はなく連携の取れた面としての展開を検討されたいなどの要望がありました。

次に、十二月定例会においては、鹿苑の特別柵における鹿の管理や奈良公園バスターミナル周辺の交通対策、若年層や海外に向けた観光PR、公共交通維持に向けた市町村への支援などについて質疑がありました。また、Vチューバーを活用し、若者層の観光需要や県内消費の喚起に繋がる施策を検討されたい、持続可能な地域を守っていくため、路線バスの維持について市町村と共に県としても主体的・能動的に取り組まれないとの要望がありました。

次に、二月定例会においては、イベント廃止についての考え方や大和西大寺駅・平城宮跡周辺の渋滞踏切対策、特定道路上の踏切道等の整備状況などについて質疑がありました。また、ドローンの飛行に係る申請・届出方法を整理されたい、冬期の誘客イベントを廃止することから、効果的な政策を検討されたいなどの要望がありました。

以上のような経緯を踏まえ、以下、四点について、さらに要望するものであります。

一 観光PRとして、SNSや動画、観光アプリなどを活用することで、海外や国内の若年層などへのPRを強化し、新たな観光需要の掘り起こしにも注力されたいこと。

一 県内の道の駅においては、単なる休憩施設でなく、市町村等と連携し、地域の観光拠点として支援されたいこ

と。

一 高齢化・過疎化が進むなか、地域公共交通の維持は持続可能な地域を守っていくことにつながるため、市町村と連携し、県も主体的・能動的に方策を検討されたいこと。

一 一 昨年の大和郡山市内で生じた踏切道内の事故を受け、踏切道内誘導表示の標準的な整備内容が示されたことを踏まえ、特定道路以外の踏切道についても、鉄道事業者や関係団体とも連携し、積極的に安全対策に取り組まれないこと。

なお、今後も、当委員会においては、所管事項に関することについて、引き続き慎重に審議を行ってまいりたいと考えております。

以上、中間報告といたします。